

上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）説明書および同意書

上部消化管内視鏡検査（いわゆる胃カメラ）は、口から太さが約7-9mmの内視鏡を挿入し食道・胃・十二指腸に病気（炎症、潰瘍、ポリープ、癌、ピロリ菌感染など）を診断して、適切な検査間隔や適切な治療方針を立てることが目的です。

- ① 検査時に病気が認められた場合には、必要に応じて生検（一部組織を採取すること）し、顕微鏡で観察し良性か悪性かなどを病理組織診断します。またピロリ菌感染の有無も調べます。
- ② 最近では、血液を固まりにくくする薬を飲んでおられる場合でも生検を行いますが、薬の種類によっては一旦薬を中止していただく場合があります。薬剤の中止に関しては個人の病状により異なりますので、その薬を処方されている主治医の先生と十分相談していただく場合があります。
- ③ 検査はのどの麻酔を行った後、お腹の動きを止める薬（鎮痙剤）や検査を楽に受けていただくための鎮静剤を使用させていただきます。なお鎮静剤は非常にごく稀ですが、呼吸抑制など重篤な合併症を引き起こす場合があります。
- ④ 検査時間は5分から10分程度です。
- ⑤ 検査後は鎮静剤などの効果が残る可能性があるため、1時間ほど院内で休んでいただきます。また検査当日は自動車や自転車などの運転をおやめください。
- ⑥ 検査後はしばらくのどの麻酔が効いているため、1時間ほど飲食ができません。
- ⑦ 検査で生検を行った場合、病理検査の結果が出るまで約10日間を要します。
- ⑧ 上部消化管内視鏡検査による偶発症は以下のように報告されております。
 1. のどの麻酔など前処置薬による偶発症（全内視鏡検査）0.0037%（死亡0.00009%）
 2. 検査時（内視鏡治療含む）の偶発症（出血や穿孔）0.0025%（死亡0.0000016%）

（日本消化器内視鏡学会雑誌, 2010）

上部消化管内視鏡検査の必要性・偶発症に十分ご理解いただき、同意署名欄に御署名ください。

年 月 日

□上記に内容について理解し、上部内視鏡検査の実施を承諾致します。

患者氏名

代理人氏名（続柄）